



惜しまれながら チェスBOROカップ水泳駅伝FINAL開催

8月5日、マグアビーチには全国からスイマーが集まり、チームの垣根を越えて互いに声援を送り、健闘を称え合い、34年つないだ水泳駅伝への想いを分かち合いました。

この大会は、チェスBORO号遭難100周年を機に、1990年から開催。5人1チームで、単にタイムを競うだけでなく、旧車力村から米国メイン州バス市までの直線距離10,200kmを、全参加者の泳いだ距離を毎年累計し、泳ぎ切ることを目標としていました。

「勇気と愛は海を越える」をキャッチフレーズに、水泳駅伝という珍しい競技スタイルもあって、毎年全国からスイマーが集まり、壮大な夢に挑んできました。

しかし、コロナ禍のため2020年以降、3年連続で大会は中止。その間、主催するチェスBORO倶楽部では、メンバーの高齢化・後継者不足を理由に、今後の継続は困難と判断。今年の第31回大会をもって区切りをつける決断をしました。

今大会では、より参加しやすくしようと、3人で1チームにルール変更。当日、44チームが出場し、泳いでつないだ距離は約68km。バス市までの残りの距離を約4,200kmとしてFINALの水泳駅伝を終え、参加者からは名残惜しむ声も聞かれました。



開会式でエールを送るバス市の皆さん



スタートの合図で一斉に海へ駆け出す選手たち



タッチでタスキをつなぐ選手



緊張感が選手を包むスタート前



仲間も加わって一緒にゴール



盛大な花火で締めくくった大会

声援を受けながら泳ぐ選手たち



力を振り絞ってゴールに向かう選手



仲間が見守る中ゴールに向かう大会最終泳者



メロンを食べて水分補給



ゴールの記念に仲間とパシャリ



表彰式で喜びを語る優勝チーム